1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1572400479		
法人名	社会福祉法人 桐鈴会		
事業所名	グループホーム桐の花		
所在地	新潟県南魚沼市浦佐5141-5 (電話) 025-780-4110		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	11月6日

【情報提供票より】(19年 9月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人	
職員数	9人	常勤 6人、非常勤 3人、常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階	建ての	1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	900 円	

(4) 利用者の概要 (19年 9月現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 91歳	最低	77歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萌気園浦佐診療所、南魚沼市立ゆきぐに大和病院、萌気園歯科診療所
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に公園や病院や学校等があり、窓からは八海山の山並みなどの自然が見渡せる。併設の施設としてはケアハウスと、コンサートや講習会が行われる地域交流スペースがあり、ホームと協力して地域の介護拠点としての役割を担っている。ホームの運営は、管理者や計画作成担当者を中心に、職員一人ひとりが利用者個々に対する支援方法を理解し、理念の具体化を実践している。職員はケアに対して熱意を持っており、利用者から感じ取ったことを、考え、協議し、実際のケアとして提供できる教育がなされている。また、法人の理念として「終の住み家」としてのケアの提供が謳われており、重度の方であってもホームで最期を迎えることも出来る。この実現のために、ホームは主治医や訪問看護、関係医療機関との有機的な連携や協力体制を確保しており、通常グループホームでは困難と思われる医療やケアを、ホームに居ながらにして受けることが出来ることが特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を活かした改善に計画的に取り組んだ。「場所間違い等の防止策」では表札を利用者の目線に合わせて見やすくした。「マニュアル」はホームの状況に則した実施しやすい内容とし活用している。「栄養摂取状況」については、栄養士に相談したり、健康診断のデータを参考にして把握している。「口腔ケア」は3食ごとに確実に実施し、「感染症対策」「衛生管理」では明確な取り決め、マニュアルに基づき実施している。「苦情相談窓口」についても責任者氏名を明示した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価をサービスの質の確保・向上の機会として踏まえ、自己評価・改善計画を職員全体で計画的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を開催してホームの実状等の報告を行い、委員からの助言・要望等の意見をホームの運営に反映させるよう努力している。また、自己評価・外部評価の説明を行い、改善方法や計画について委員と共に取り組んでいく予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時や必要があれば随時電話連絡を行い、日々の暮らしぶりや体調の変化等について家族に報告している。送付物を郵送する際にも、メモ書きを入れる等の配慮もなされている。また、面会時や運営推進会議、年2回の家族会等において、家族の要望や希望を聞き、職員同士で協議し運営に反映出来るように努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームに併設する夢草堂(多目的ホール)でのコンサートや催し物に地域の人と一緒に参加している。また、森公園祭りや文化祭等の地域の催し物にも積極的に参加し、近隣の小学校のボランティア活動等の訪問も受けている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を、職員と共につくりあげ、地域の中で暮らす利用者の普通の生活を、関わる職員が寄り添うケアを提供することにより具現化できるように意識している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やケア会議等の場面で、利用者のケアやホーム運営に対して理念を常に意識し、考えに迷ったときは理念に立ち返り、理念を全ての職員で共有したケアを提供している。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	機関紙を地域に配布することによって理念の浸透を図るよう努力している。また、家族には利用開始時や年2回の家族会等、折に触れて理念について説明している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに併設する夢草堂(多目的ホール)でのコンサートや催し物に地域の人と一緒に参加している。また、森公園祭りや文化祭等の地域の催し物にも積極的に参加し、近隣の小学校のボランティア活動等の訪問も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの質の確保・向上の機会としてとらえ、自己評価・改善計画を職員全体で計画的に取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの実状等の報告を行い、委員からの助言・要望等の意見をホームの運営に反映させるよう努力している。また、自己評価・外部評価の説明を行い、改善方法や計画について委員と共に取り組んでいく予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する地域サービス事業者担当会議等に参加し連携を十分に図っている。また、必要時には随時、市に相談し助言を求め連携をとっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	実際の事例の新聞記事等を用いて、虐待の種類や陥りやすい危険性について学習会が持たれ、職員に虐待防止についての考え方が周知されている。また、今後も関係法令への理解を深める研修会を定期的に開催する予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要があれば随時電話連絡を行い、利用者の日々の暮らしぶりや体調の変化等について家族に報告している。また、送付物を郵送する際にも、手書のメッセージを入れる配慮がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年2回の家族会、運営推進会議等において、家族の要望や希望を聞き、職員同士で協議し運営に反映出来るように努力している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや、職員が一堂に会する職員会議やケア会議等において、運営に対しての意見や要望を聞き取り、方針や予算等に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は現在のところほとんど無く、利用者との馴染みの関係や信頼関係が築けるように配慮されている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	感染症・急変時・基礎介護など各種マニュアルが整備されている。また、必要に応じて個々の利用者の具体的な介護方法等のマニュアルも整備され、今後も、適宜追加・改正する予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、外部研修に職員を派遣している。内部研修は日常的なITを基本として取り組みが行われている。今後は、年間の必須項目を定め計画的な研修を検討中である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員が、約3カ月毎に近隣のホームとの学習会に参加すると共に、相互訪問実習も行いホームの優れている点や不足している点について理解しサービスの質を向上するよう努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者、管理者に対して職員が意見や悩み等を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、個々の職員がしっかりと利用者を理解し、目的意識を持ってケアを提供していることが、悩みや迷いの軽減につながっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居判定会議を設けて、サービスの必要性や生活状況等について十分検討している。また、利用前には利用者の状態や特性等についても面接により本人家族・関係機関から情報を収集し、ホームを実際に見学して長時間滞在してもらうなどして、利用者の戸惑いや不安を少なくする配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と生活を共にし、調理や家事・野菜作り・地域の風習等において職員は利用者から学び、利用者はその活動に必要な支援を職員から受け、支えあう関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでは、看取りまでのケアを提供するためには家族の協力は不可欠であるとの考えを持っており、面会時に家族に利用者の暮らしぶりについて十分に報告し、必要に応じて助言を求めるなどして、良い関係が築かれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面接により、利用者の思いについて、本人・家族・関係機関から十分に情報を収集している。また、生活の中で折に触れて利用者一人ひとりの考え方や希望を感じ取り、気づきを職員で協議している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面接により、生活歴や生活習慣・環境等について、本人・家族から十分に情報収集している。また、今までのサービス提供機関等の関係機関にも聞き取りを行い、多面的に把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や要望と合わせて、職員は毎月のケア会議や必要時には随時協議している。また、他事業所の訪問看護や協力医療機関の専門職の意見や助言も参考にして、チームで介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低でも3ヶ月に1回のモニタリングと、状態変化が生じた際には随時介護計画の見直しがなされている。また、今後も介護計画の書式や作成の方法について改良を重ねていく予定である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係医療機関との協力体制が確保され、随時往診を受けることができる。また、家族が遠方より面会に来られた時、安価で宿泊できるよう配慮がなされている。今後はホームの空きスペースを使った通所サービスや短期入所サービスについても検討中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看取りまでのケアを提供するために、訪問看護や協力医療機関等との連携が十分に展開されており、随時の往診や病状観察等の医療サービスを密に受けることができる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護や協力医療機関等と連携して看取りまでのケアを提供するとの方針が、初回利用時や家族会の時などに繰り返し本人・家族に周知している。また、何気ない機会に本人にも意思確認を行い、家族とも随時相談している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないように配慮した関わりや支援が提供されている。また、今後は個人情報保護等の関係法令の研修を開催予定である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の出来ることや得意なことを、生活の中で一人ひとりのペースで実践できるように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を活かし、利用者の希望メニューも聞き出しながら個人の能力に合せ協働して食事作りを行い、職員も利用者と一緒に同じテーブルで食事を摂り、食事を楽しむ支援を行っている。また、食時摂取に時間を要する利用者には、食事時間を本人に合わせて調節するなど配慮している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別に自立に向けた支援を行っている。また、排泄について医療的な管理が必要な利用者については、主治医や訪問看護師と協力して対応がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体に障害があっても入浴できるように、浴室に工夫がなされている。利用者の状態等を考慮して柔軟な入浴支援が行われている。プライバシーを配慮して利用者1対1(重度の方には職員が2名)で、同姓介助を原則としており、安心してゆったりと入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみや野菜作り・食事の下ごしらえ、食器洗い、テーブル拭きなどのホーム内での役割に加え、散歩や民謡など利用者一人ひとりの出番や楽しみごとが見出されるよう、場面作りの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や毎日の食材の買物を日課としているほか、地域の行事にも積極的に参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという共通の認識が図られ、実際に身体拘束は行われていない。今後は身体拘束等の関係法令の研修を開催予定である。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯では玄関の鍵はかけられておらず出入り自由である。利用者の能力に応じて一人で散歩に出かける方も見受けられた。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の予防として、安全な住環境の整備と筋力訓練がなされている。また、事故発生時等にはすぐさま事故報告やヒヤリハット報告書を作成し、ミーティングで話し合い予防策を検討、実践し事故の再発防止に努めている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	消防署主催の救急救命法の講習会に職員を参加させる等、急変や事故発生に備えた取り組みを行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年間2回の防災避難訓練を実施している。また、地域協力員として災害時に地域住民の協力が得られる体制が確保されている。今後は火災だけでなく地震や水害も想定した計画や訓練を検討中である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導を受け、栄養バランスに考慮した献立で食事の提供がなされている。また、ミキサー食や刻み食等の状態や体調に合わせた食形態の提供も可能である。水分摂取についてもこまめにお茶をすすめ、確認が必要な利用者については1日の水分摂取量を把握して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ムクの木がふんだんに使われた温かみのある建物である。共有空間は十分なスペースが確保されており、食堂のすぐ脇に畳のコーナーが用意されている。日差しや風通しも良く、利用者の作品や季節の花が飾られ、居心地の良い環境が確保されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者がこれまで使用してきたタンスや鏡台が持ち込まれていたり、手作りの物品が飾られているなど、それぞれ落ち着いて過ごせる場所となっている。</p>		